

石見銀山絵巻

「石見銀山絵巻」は 19 世紀に石見銀山の仕組みを説明する文書である。銀山を訪れる人々や、幕府から鉱山に派遣された視察官や管理官などの新参者が読むことを意図したものである。全長 24 メートル、2 巻に及ぶ図解入りのマニュアル的なもので、坑夫のさまざまな作業内容、坑道工事の詳細、鉱山の経済的概要などが詳細に記されている。

坑道の監督や様々な役人の仕事など、行政的な機能についても詳しく説明されている。たとえば、政府直轄の坑道入口に設置された検問所「四ツ留役所」の図には、常駐する役人の職務が詳細に記されている。帰ってきた坑夫が運ぶ銀鉱石の重さを量ったり、山中で働くことを許可された者だけが山に入れるようにしたりと、その責務は多岐にわたった。関連する図面には鉱区内に住む女性や子供たちが、次の世代の鉱夫を育てる意味で、鉱夫が低品位と判断した鉱石を選別するなど、検問所の近くでどのように働いていたかが描かれている。

地下水の氾濫や坑道の崩壊を防ぐために採掘坑道で採用された工学的な解決策についての記述もある。その中には、坑道から坑口へと続く坑道に水をくみ上げるための人力ポンプを中心とした除水システムの図解も含まれている。また、坑道の奥深くで壁を定期的に補強するために、丸太などの建設資材を運ぶ大工とその助手の奮闘ぶりを示す図もある。